

【17】大雨のときはフロの水を替えるな！

昭和 50 年（1975）頃は、河川や下水道の整備が不十分で都市域では時間雨量 20mm くらいでも浸水する場所が珍しくなく、都市水害対策が急がれていました。

そんな時、東京の都市河川対策の研究会で、高名な大先生の不規則発言があり、“大雨のときにフロの水を替えないように都民に P R せよ”と言われたのです。出席者一同、何の事かよくわからずキョトンとしていましたし、筆者は水質汚濁のことかな？洪水のときに合流式下水道から公共用水域にあふれる下水のことが問題になっていたのですが、フロの水なんて多寡が知れていると思いました。

会議が終わって懇親会のときに、先生に発言の真意をお尋ねしたところ、ニヤリとして排水量を勘定してみろとの御宣託です。翌日、大ざっぱに概算してみました。（現在の数字での再現）

東京都 23 区の総世帯数 490 万の 80%、390 万世帯に容量 200ℓの浴槽（バスタブ）があるとし、総量 78 万 m³の浴槽の水を一斉に 6 分間（著者の実験）で排水するとなんと 2200 m³/s という大きな値になります。

東京区部の代表的な河川の神田川や石神井川の計画洪水流量が数百 m³/s オーダーですから、390 万世帯が一斉に排水というあり得ない状況下の単なる数字とはいえ、その大きさに改めて驚きました。

先生は、雨水の各戸貯留や浸透にも熱心に取り組んでおられましたから、「チリも積もれば山となる」ことをわかり易く言われたのですが、聞いている方がすぐには理解できなかったのです。